

スポンMP-P100～200 せめ(結び)配管時の施工手順

水道配水用ポリエチレン管 (JW-P) 用

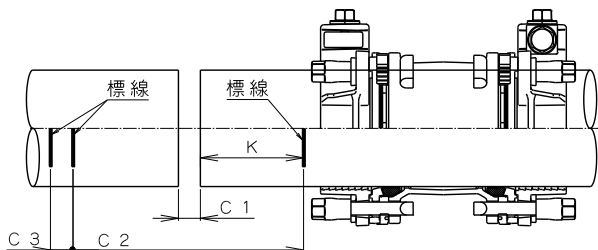


注意

- ・ストップリング内面は素手で触ると危険ですので十分注意して下さい。
 - ・必ず施工手順を守り、施工して下さい。
- 施工手順を守らない場合、漏水等事故の危険性があります。

① パイプに標線を記入

- ・継手をパイプにあずける。
- ・**パイプ間距離をC1の範囲にする。(厳守)**
- ・片側のパイプに標線 (K寸) を入れる。
- ・もう片側のパイプにK寸を基準として標線 (C2, C3) を入れる。
- ・パイプ切断のカエリは取り除く。滑剤塗布不要。

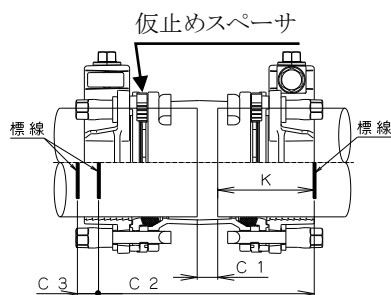


□ K寸およびC寸表

呼び径	K (mm)	C (mm)		
		C 1	C 2	C 3
100	135 ⁺¹⁰ / ₋₀	0~15~30	300	35
150	160 ⁺¹⁰ / ₋₀	0~15~30	350	35
200	200 ⁺¹⁰ / ₋₀	0~20~40	440	45

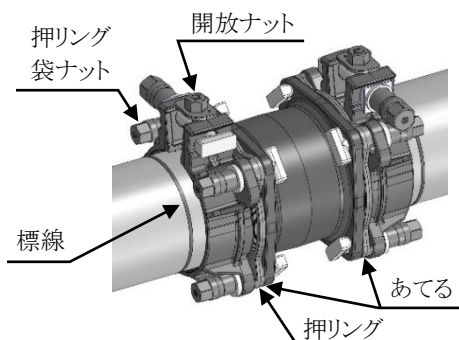
② 継手を施工位置にスライドして仮止めスペーサを取り外す

- ・継手のK寸標線側受口を標線 (K寸) に合わせる。
- ・スライドしにくい場合は裏面参照。



③ 両側受口の押リングを交互に軽くあたるまで仮締め

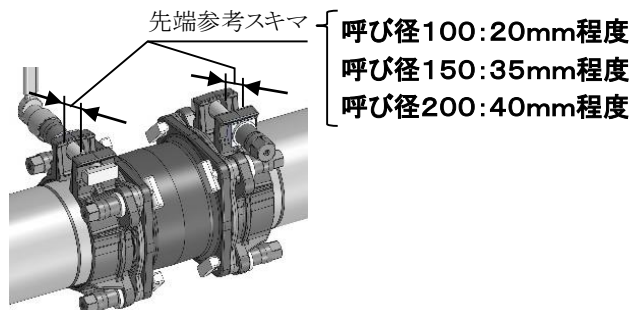
- ・**パイプ引き込み防止のため**
- ・スキマが均等になるように締めつける。
- ・C寸標線側のSRの端面が標線 (C2, C3) の間になる。



呼び径	ボルトサイズ (参考締付トルク [N・m])
100	M16 (55)
150	M20 (80)
200	M24 (120)

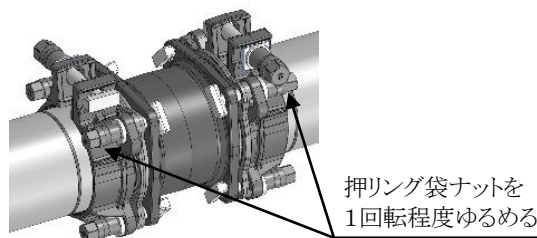
注1)

④ 両側受口の開放ナットを取り外してストップリングを参考スキマまで仮締め



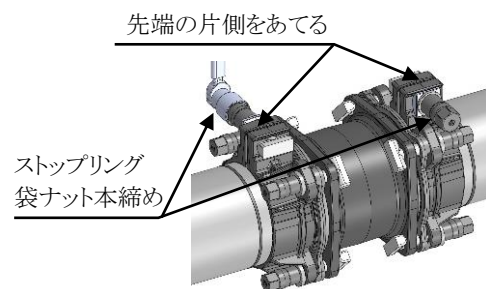
⑤ 両側受口の押リングを1回転程度ゆるめる

- ・ストップリング本締め時の過剰トルク防止のため



⑥ 両側受口のストップリングをあたるまで本締め

- ・ストップリング先端の片側があたるまで締めつける。
- ・ストップリングが締めにくい場合は、押リング袋ナットをさらにゆるめる。
- ・呼び径200の場合は、ボルトが2本あるのでひんばんに交互に締めつけること。

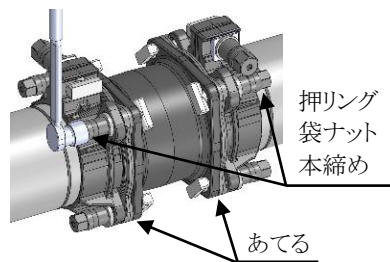


呼び径	ボルトサイズ (参考締付トルク [N・m])
100	M20 (50)
150	M24 (80)
200	M24 (110)

注1)

⑦ 両側受口の押リングを交互にあたるまで本締め

- ・押リングをゆるめたものを本締めするので、パイプを引き込まない



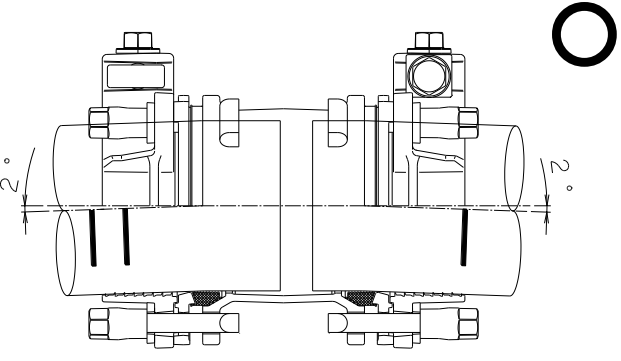
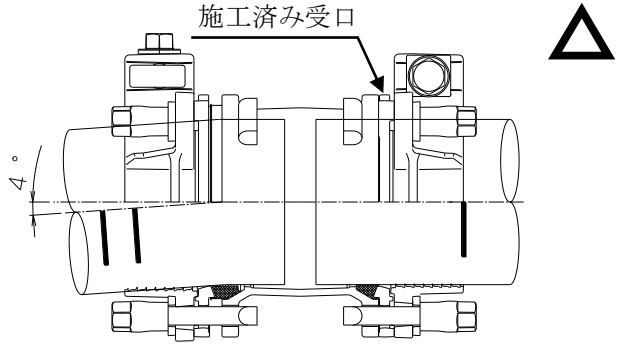
呼び径	ボルトサイズ (参考締付トルク [N・m])
100	M16 (35)
150	M20 (50)
200	M24 (70)

注1)

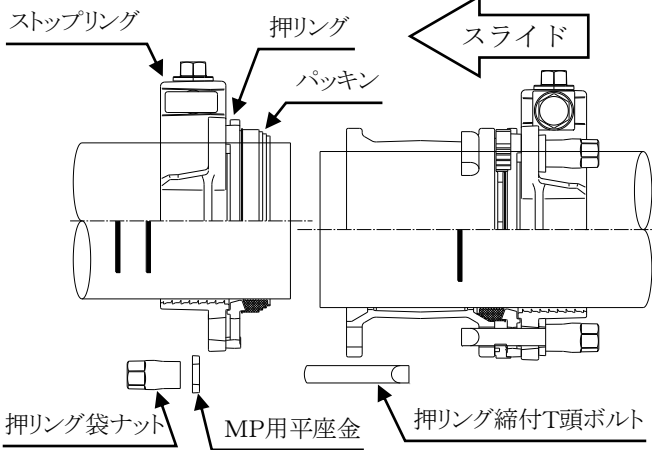
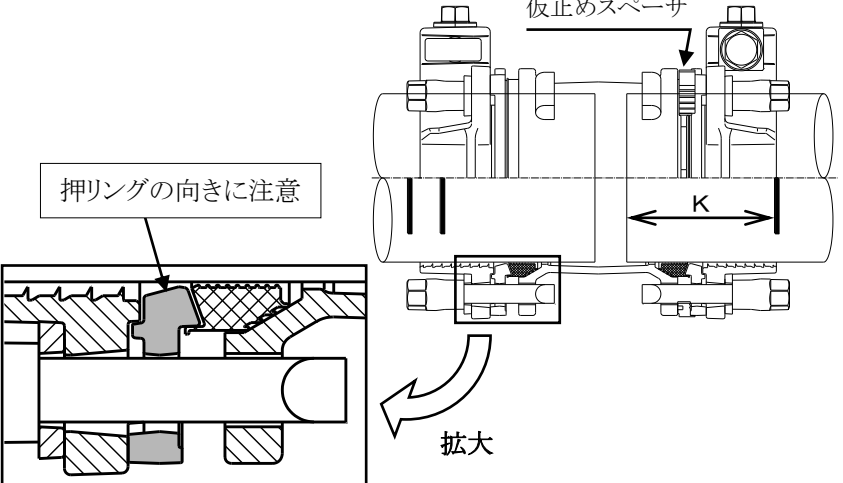
注1) 締付トルクは温度によって変わります。

両側受口を交互に施工する理由

管路の可とう・偏芯を両側受口で吸収し、1受口に影響する可とう・偏芯を軽減するため

両側受口を交互に施工する場合	片側受口ずつ施工する場合
 <p>各受口部の可とう・偏芯が小さくなり、押リング仮締め時のトルクが高くなりにくい。</p>	 <p>後から施工する受口の可とう・偏芯が大きくなり、押リング仮締め時のトルクが高くなる。</p>

手順②でパイプの芯ずれにより 継手をスライドしにくい場合の対処方法

	<ol style="list-style-type: none"> 1) 継手の片側受口の押リング袋ナットを外し、ストップリング、押リング、パッキンを継手から取り外す。 2) 外したストップリング、押リング、パッキンをもう片側のパイプにあずける。 3) 施工位置に継手本体をスライドする。
	<ol style="list-style-type: none"> 4) 分解した受口を組み立てる。 5) K寸標線側の受口を標線 (K寸) に合わせる。 6) 分解していない受口の仮止めスペーサを取り外す。 7) 手順③に続く。

⚠ 注意

・分解した受口を組み立てる際は、部品の向きに注意して下さい。
部品の向きを間違えた場合、漏水等事故の危険性があります。